



作兵衛翁の遺徳をしのいで

平成 23 年度 義農祭

享保^{ききん}の飢饉の際、後世に麦種を残すため、自らの命を犠牲にした義農作兵衛(1688-1732 年)の遺徳をしのぶ義農祭は 4 月 23 日、義農公園で開かれました。

式典では、白石勝也町長が「東日本大震災における日本全国・世界各国に広がる支援の輪について、自分のことより、人のため社会のためにという、崇高で人を思いやる義農精神の大切さと偉大さを実感した」と述べた後、参列者が献花を行いました。

震災に配慮して、毎年恒例の演芸は実施されなかったものの、午前と午後にそれぞれ行った餅の配布には長い行列ができ、会場内に設置した募金箱には多くの義援金が寄せられました。

また、町内をはじめ伊予市や砥部町の海産物や野菜などを即売する「ふるさと市」が行われ、あいにくの天候にもかかわらず、大勢の人でにぎわいました。



1 祭壇に献花

2 餅の配布には午前午後とも長蛇の列ができた



1 岡田中学校の生徒による人権啓発劇

「エスパー未来」

2 ご自身と父親の体験を赤裸々に語る城戸さんの講演に胸を打たれた



差別のない社会を目指して

明るい人権の町づくり大会

2011 明るい人権の町づくり大会は 5 月 14 日、「守ろう人権 なくそう差別」の大会テーマのもと、松前総合文化センターで開催され、約 600 人が参加しました。

人権啓発劇では、岡田中学校 2・3 年生 13 人が、いじめに対する正しい理解を深めていくクラスの様子を描いた「エスパー未来」を熱演しました。

生徒たちは劇を通して、お互いを尊重することの大切さを呼び掛けました。

記念講演では、中国残留孤児二世でフリーライターである城戸久枝さんが、「あの戦争から遠く離れて」(NHK 土曜ドラマ「遥かなる絆」の原作本)と題して自身と父親(城戸幹氏)の体験を赤裸々に語りました。

中国残留孤児だった父がどうして孤児になり、どのように中国で育ったのかー

そのルーツをたどるために、城戸さんは 21 歳で中国へ留学し、父親とかかわった人たちに会いに行きました。そんな城戸さん自身の体験を通じ、「戦争とは何か」を強く参加者に訴えました。